

自分の生き方

私は幼いころよくアンパンマンを見ていた。その時は、たぶん何も考えることなく見ていたのだと思う。しかし、高校生になり、宗教の授業で改めてアンパンマンの映画から学ぶ機会があり、「何のために生まれて、何をして生きるのか」という言葉に出会い、考えさせられた。誰かのために犠牲になってでも誰かを笑顔にしたいと思うことは、とても勇気のいることだと思う。私も家族や友人はとても大切な人たちだ。しかし、自分が死ぬかもしれないときにその人たちを絶対助けるかと言われたら、なかなか難しいと思う。私は自分を犠牲にするのではなく、自分を含めた全員が助かる道を探したいとも思った。

私は正義のヒーローではない。人を助けることが自分の生きがいだとはあまり思わない。将来、私は家具作家になりたいと思っている。それはアンパンマンのように誰かを助けることはできない。しかし、誰かを笑顔にすることができる仕事だと思っている。私の作った机や椅子で誰かが食事をする、普通の会話でみんなが笑顔になる。間接的かもしれないが、私も誰かを笑顔にすることができるのだ。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」と聞かれてもすぐには答えられない。しかし、みんなと一緒にいて、みんなで笑顔でいられることは、最高に幸せな人生だと思う。そして、そういう幸せな人生のかたわらに、私の作った家具があれば、と私は願っている。

(三年)

自分を受け入れる

この三年間は決して楽しいことばかりではありませんでした。嫌なこともあったり、面倒くさいと思うこともあったり、部活で悩むこともありました。そんな時、宗教の時間だけは心を落ち着けることができ、「よし。切り替えて頑張ろう」そう思うことができました。私にとって宗教は心の支えです。

宗教を通して、命の大切さ、健康な体がどれだけ幸せか、家族や友達の温かさ、自分自身を認める大事さなど、人生のことについて数多く学ぶことができました。そして宗教の授業を学べたこと、クラスメイトに出会えたこと、部活の仲間に出会えたこと、先生たちに出会えたこと、そして大谷高校に入学して卒業できること、全部が私の宝物です。

三年間の宗教の中で今も心に残っている言葉があります。「相手に受け入れてもらおう前に自分自身を受け入れる」、この言葉を聞いてから私は少しずつ自分自身を受け入れようと努力してきました。この言葉が私を変えてくれました。大谷に入っていないなかったら宗教にも出会えていないし、私は変わっていませんでした。だから社会に出ても恥ずかしくありません。これからも自分の意志をもって歩み続けたいです。

(三年)

覚悟

私はこの三年間を通して「覚悟」というものを学びました。

生まれた県を飛び出し、憧れていた大谷高校空手道部に入り、最初はとてもワクワクした気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に入ってみると、厳しく、きついことばかりで、寮生として身の周りのことも全て自分でやらなければならず、自分自身が押しつぶされそうになった時がありました。そんな時に宗教の授業で様々な人の生き様を学び、自分には覚悟が足りなかったのだと気づきました。何のために、何をするためにここへ来たのかを考え、自分なりの覚悟をもって日々過ごしました。覚悟を持つてからは、挫けそうになった時、自分で決めたこととうそをつきたくなくて、ひたすら取り組みました。すると自然と暗かった目の前が明るくなり、自信を持つてるようにになりました。

自分で決めたことを毎日やり抜くのはすごくきついです。でもだからこそ今の自分があると思います。「覚悟」を教えて下さった宗教の授業、先生方に感謝してこれからは活かしていきたいです。そして大学でも挫けることなく、自分なりの覚悟を持って頑張っていきます。

(三年)